

## 第5次真鶴町総合計画（町民説明会資料）に対する意見募集結果について

### 1 意見募集の概要

題名	第5次真鶴町総合計画（町民説明会資料）
公表の日	令和2年11月8日（日）
意見提出期間	令和2年11月9日（月）から11月25日（火）まで
町民への周知方法	町内公共施設およびホームページ
結果の公表日	令和3年3月1日（月）

### 2 結果の概要

意見数（提出者数）	13人
インターネット	9人
郵送	0人
直接持参	3人
ファックス	1人
無効な意見提出	0人

### 3 提出意見の区分

区分	意見の考慮の結果	件数
A	意見を踏まえ、案に反映したもの	2件
B	案に反映しないもの	8件
C	今後の参考やご意見として承るもの	39件
合 計		49件

### 4 具体的な内容（意見は原文のまま掲載しています。ただし、項目立てや個人名の削除など、提出者の意思に影響しないよう一部修正を加えています。）

No.	ページ	意 見	区分	町の考え方
1	-	<p>基本構想の中でもありますように、「育む」の中でも(まちの宝である子供たち)とあります。新町長には特に、子供の教育とかには意気込みを感じております。ここでいう子供たちとは、何歳から何歳までをいうのでしょうか。生まれたての赤ちゃんから義務教育の子供までなののでしょうか。私は常々、中学を卒業した後のまだ少年とかの育てにもっと力を注ぐべきと思っていました。</p> <p>この町に小公園も含めて、こんなに公園と名の付くものがあると思っていませんでした。公園とは公の場所。子ども達だけが占領するものではありません。高齢の人たちの憩いの場所であってもいいものです。しかし優先したいのは小さい子供たちの遊び場所でしょう。町が公共の場所を、手入れ、整備するのはいいとして、時には、その目的、用途も入れてしないと中途半端になってしまうのではないのでしょうか。私がちょっと耳にしたのは、小さいお子さんがいる親たちが、必ずしも既成の公園にのみこだわっていないということです。真鶴には、他市町村にはない、海、お林という大自然があるのではないですか。岩海岸や大ケ窪、尻掛海岸、(〇〇など職料理店のところは県の公園としているのかも)。特に岩海岸などは何も海水浴場のみではなく、公園として活用できるのではないのでしょうか。</p> <p>小学前の幼児などはどこへいくにも保護者が必ずついていくだろうし、異年齢が楽しめるし、多方面からの来訪も望めます。既成の公園は、要望のトイレの設置とか、遊具の整備とか手入れにして、新たな構想で公園づくりを目指したほうが効率的だと思います。ただ導岸がどこの管轄で可能かどうかともわかりませんが、広域で楽しめる自然を利用した公園づくりもいいのではないかと思います。海を背に、砂浜で遊びまわる子供たち、少年たちが岩の周りで遊んでいる光景、潮風にゆったりとする高齢の人たちの姿が目に見えます。異年齢で楽しめるどこにも真似ができない公園。真鶴だからこそできる独特の公園。予算的なものもあるでしょうがご一考いただければ嬉しいです。</p>	C	子どもたちは大人になる前、大人になるまでの子を指しています。町にある公園については町民の皆さんのご意見をしっかりと聞き、協働で公園の利活用や整備を実現していきたいと考えております。
2	-	<p>今回の説明会の資料を事前に引き取り又は自費での郵送は考慮出来ないか。当日進行係の趣旨・注意事項等々と本資料を読むのが難しい。説明会の発言を要約して準備できます。</p>	C	説明会の資料については開催日直前まで資料の調整をしているため事前配布をすることは難しいです。説明会後の資料についてはホームページ等で配布することも検討いたします。
3-1	5	<p>「豊かな海、美しい景観、先人から受け継いできた歴史など、都会にはないものがたくさんあります。」</p> <p>→「都会にはないもの」とは何でしょうか。</p> <p>『豊かな海、美しい景観』は理解できますが、『歴史』は、都会と比較にならないと思います。</p> <p>『歴史』の記載は外したほうが分かりやすいです。しいて言いますと、石材等を通じて真鶴が独自に築き上げてきた他に変え難い歴史…であれば理解できますが、現在の表現では不十分です。</p>	B	都会にはないもの…豊かな海、美しい景観、先人から受け継いできた歴史もそうですが、「真鶴時間」に表現されている内容も指しています。
3-2	5	<p>「人々の営みは、昔のまんま。」</p> <p>→いつまでも成長しないコミュニティのように読み取れます。『昔のまんま』が、安心して生活できる温かい場所のようにも見えますので、大切にしていきたい価値観であることは理解できます。しかし、成長観点で厳格に読むと、町を衰退にミスリードする誤解をもたらす言葉であります。P5は重要なテーマとなるため、誤解が生じないように、もう少し表現を追加するなど検討が必要かと思いました。</p>	B	こちらは、「真鶴時間」で定めている表記であるため、現段階ではこのまま使用させていただき、見直しの機運が高まった際には検討の参考にさせていただきます。
3-3	8	<p>線路・川や道路（少なくとも県道）が書かれていないとどこがどの地区か読み取れませんでした。</p> <p>→2016年の第4次真鶴町総合計画P11でも、同様の指摘をしています。反映されていませんでした。</p> <p>川や道路等を記載するだけですので、やればできる対応だと思いますが、未対応で大変残念に思いました。</p>	A	地図全体を拡大し国道や県道が入るように調整いたします。

No.	ページ	意見	区分	町の考え方
3-4	10	「自立」「活躍」「防災」「持続」の取り組みは素晴らしく同意できますが、P5とだいたいのトーンが異なるので、どの方向に向かっているのか混乱しました。P5とP10が矛盾なく、一貫通貫で理解できるように、調整・見直したほうが良いと思いました。	B	P5では、自然とともに、歴史とともに、そして住民とともに多様性を認め合いながら幸せをつむぎ、住む人も訪れる人も一層幸せを感じられる町を目指すとしています。そのため、P10では、町の存続を目指す「自立」、幸せを感じられるための「活躍」、命を守る「防災」、町民とともに地域をつくる「持続」をこの4年間に重点として取り組むこととしています。
3-5	10	例えば、P10は現在の現実的な対応で理解できますがP5で記載の「美の基準」は古い基準であるため、現在のP10の状況・・・「自立」「活躍」「防災」「持続」を踏まえて見直しが必要と考えました。「美の基準」は、特定地域にのみ適用するなど、大切にしたい美と、成長とともに変える必要がある美と、分ける必要もあると思います。	C	まちづくり条例が施行され約28年経ちます。時代の変化に伴い14都市計画・土地利用において検証作業に入ることとしています。
3-6	13	『施策分野に関する統計資料が入ります』、『目標とする指標が入ります』と未記載があるため、結局どこを目指しているのかわかりませんでした。玉虫色に読み取れ、結果的にハードルが低く設定される心配があります。以降のページも全て、『施策分野に関する統計資料が入ります』、『目標とする指標が入ります』とあるため、同様の指摘になります。	B	ハードルの高低は問題視していません。目標に対してどうだったかという数値の結果だけでなく、どうしたらもっとできるか、どうしたら目標に近づけられるかを検証し、次の取り組みに活かしていく所存です。
3-7	19	「駅」「渋滞」に関して検索しましたが、何も記載がありませんでした。重要な施策であるはずが、何も無いため残念でした。P19に限らず、全般で見直しましたが、町の生活に直結する「駅」「渋滞」は触れないと、総合計画が何を目指しえるか片手落ちになってしまいます。	A	ご指摘のとおり、町の玄関口であり町民の生活に直結する課題であることから、「14 都市計画・土地利用」において、「直近の課題」と「主な取り組み」において真鶴駅前対策を反映させます。
3-8	26	『外国語教育』は記載がありましたが、『外国人』に関して何も記載がありません。『外国語教育』で外の人たちとのコミュニケーションが上達するのは賛成です。しかし、『外国人・移民』を積極的に受け入れる方針が見られませんでした。SDGsの目標10「人や国の不平等をなくそう」ともあります。また人口減少を抑制して過疎から脱却することが、真鶴にとって重大な課題であるため、『外国人・移民』の受け入れは積極的に受け入れ可能、検討可能な施策と考えます。『外国人・移民』が一言も出てこないため心配になりました。	B	町への移住者を増加させることは目指しますが、その移住者について日本人、外国人の区別はしていません。
3-9	26	2016年の第4次真鶴町総合計画でも、同様の指摘をしていますが、移住を推進しているにもかかわらずそもそもこの電子申請で意見を言えるのが在住・在勤しか対象にしています。→2016年から何も変わっていないので、非常に残念でした。P5『昔のまんま』が、このような業務に悪影響を及ぼしていないか心配になりました。SDGsの目標10「人や国の不平等をなくそう」ともありますので、不平等が無いようにしてください。	C	町と無関係の方から、第三者的な意見をお聞きすることも大事ですが、この計画では、P5に記載したとおり、住む人も訪れる人も一層幸せを感じられる町を目指していることから、在住者及び在勤者からのご意見をいただくこととしました。
3-10	31	「サテライトオフィス」「シェアリング・エコノミー」は真鶴で何ができるか、さらに深掘したほうが良いと思います。理由は、コロナの影響で、数年前から状況が大きく変わってきているからです。テレワークの利用が増えてきており、サテライトオフィスを利用することなく、実家で十分仕事ができます。実家が無くとも、公民館で鍵付きの個室が利用できれば、テレワークができるので十分かと思われます。	C	さらなる深掘については、ご指摘の内容も踏まえ、実施計画の中で検討していきます。
4	13	「防災・減災」に絞って意見を提出したいと思います。大地震発生の不安は真鶴町民のみならず日本国民は絶えず継続して抱えている問題です。どこの行政側もしきりに自助、共助を盛んに唱えています。それも大切であることは理解できますが、あまり頻繁に強調しすぎると町民に丸投げ感を与えてしまう印象になりかねません。やはり、町には期待できない、いざという時に何もしてくれないだろうと余計に不安感を煽るのです。まず役場のその消極的弱腰感（と見ている町民が多い）を払拭するために、せめても総務課にある防災係を独立させて「防災課」を新設できないでしょうか。私が近隣の市町村を調べたところ、南足柄市、葉山町、二宮町、開成町、大井町はそれぞれ「防災安全課」、中井町は「地域防災課」、箱根町は「総務防災課」ということでした。そのほとんどのHPのトップページには防災という言葉が出てきます。それを見ただけでも一応の安心感、信頼感を与える印象は違うと思います。勿論、新設できたとしても名ばかりでは却って信頼を損なうことになるので、全職員に周知徹底・結束を図り、積極的なヤル気感を前面に打ち出すという前提のもとに「防災課」、あるいは同じくP13の2の「防犯・消費生活」の基本方針を推進していく上でも「防災防犯課」の独立新設を検討していただくよう切に願うものです。役場内に専門のしっかりした防災の部署があるということは指示伝達や指令系統がより強固となり、町民にとっても万一の際の互助能力を高める原動力になり得ると考えます。	C	課の名称の与える影響について、防災に限らず、今後の組織・機構を改める際に参考にさせていただきます。
5-1	22	学校教育のカテゴリーが分かりませんが、中学校の完全給食化をぜひ実現してください。平日はワンオペ育児なので、お弁当の負担はかなり大変です。中学生は高校生のようにお昼代を渡すわけにもいきません。栄養バランスのとれた、地産地消の温かい給食を食べさせてあげたいです。	C	「教育振興事業」で中学校の完全給食実現に向けて具体的に検討していきます。

No.	ページ	意見	区分	町の考え方
5-2	28	<p>児童福祉</p> <p>こどもの遊び場について4歳、2歳の子どもがいます。真鶴には気軽に連れて行ける公園が少なく、週末は車で湯河原の幕山公園やさくらんぼ公園に連れて行くことが多いです。子どもたちは滑り台がたくさんついた大型の遊具を見ると、いつも目を輝かせています。真鶴には荒井城址公園がありますが自宅から遠く、駐車場も小さくアクセスが悪いため、敬遠しがちです。近くにお林展望公園があるので、パークゴルフだけでなく、遊具を設置して小さい子どもたちも遊べる場として提供していただくと大変ありがたいです。ご検討のほど、どうぞ宜しくお願いします。</p>	C	町にある公園については町民の皆さんのご意見をしっかりと聞きし、協働で公園の利活用や整備を実現していきたいと考えております。
5-3	28	<p>まなサポについて</p> <p>一応登録はしましたが、一度も利用したことがありません。予約が1週間前に必要なため、使い勝手が悪いなと感じます。ふとした時に、もっと気軽に預けられると助かるのですが、、、</p> <p>子どもを預けるために利用してる人は現状どのくらいいらっしゃるのでしょうか？町民センターでの預かりだけでなく、ベビーシッターのように自宅で少し面倒を見てくれる制度も取り入れるなど、少し見直していただきたいです。</p>	C	まなサポの登録者は令和元年度については23名、利用者は延べ人数で26名。利用者がもっと増えるように実施計画の中で検討をしていきます。
6	18	<p>町のシンボルである港をもっと町民のための憩いの場にしてほしい。以前伊東に行った時、たまたま松川藤の広場という広場に出くわしました。そこには、藤棚の屋根にテーブルと椅子があり、住民の方同士がくつろいでいました。それを見て、屋外で住民たちが集える場所が、真鶴には意外にないことに気が付きました。真鶴港も地べたに座ることはできますが、年配の方には難しいですし、小さい子供にとっては危ないと思います。ほっと一息つけるベンチや夏の日差しや雨をしのげる屋根があるとより町人にとって港が憩いの場所になると思います。</p>	C	実施計画の「港湾管理事業」で検討いたします。
7-1	11	<p>湯河原在住ですが、現在真鶴に勤務しております。そして、第一子妊娠中、保育士やベビーシッターなどの経験もあり子育て関連の計画には特に関心を持って事業計画を読ませていただきました。また、来年あたりから子育て世代と地域の方々が交流を持てるよう気軽に利用でき自然の中で遊ぶことを大切にしたい託児施設を真鶴で開きたいと検討中です。</p> <p>今後の真鶴の事業計画などを拝見させていただき私も何かできないかと思い恐縮ながら意見を申請させていただきます。</p> <p>このような機会をありがとうございます。</p> <p>一公園についての意見一</p> <p>子どもたちが安心して遊べる拓けた公園の充実</p> <p>自然のものを使って遊べる場（プレパークのように泥だらけになったり、木のぼり、斜面滑り、木の実や植物、雨水タンクで水なども自由に使えるような場所）そこに簡易的なシャワーや子ども向けのトイレなどがあると尚ありがたいです。公園とは違いますが、別項に記載されていたガードレールなど歩行者向けの対策もありがたいです。</p>	C	町にある公園については町民の皆さんのご意見をしっかりと聞きし、協働で公園の利活用や整備を実現していきたいと考えております。
7-2	20	<p>一学校教育について一</p> <p>教育の見直しや取り組み計画が素晴らしいなと思いました。小学校以上の取り組みだけでなく、保育園・幼稚園からもそういったふるさと教育や体験学習を大切にしたい教育ができることより豊かな感性が育っていくのではないかと思います。大人が先回りし危険を回避しすぎてしまい子どもたちが自分で感じ、考え、行動できる機会が減っているように感じます。園庭で遊ぶことも少ないとか…</p> <p>保育中にテレビを見せているという話も聞きました。（又聞きなので、確かでなかったら申し訳ありません）真鶴の方が知り合いが多いということもありぜひ我が子も真鶴の保育園に入園させたいなと検討しております。足立区では、区全体の公立園で保育の見直しをしているようです。（本も出版されています）公立では難しいこともあるかと思いますが、改善できることもあるかと思っています。もちろん、保護者の意識改革など先生たちだけの負担ではなくみんなで変えていくべきことだと思っています。是非こちらの検討もお願いします。</p> <p>また、これは個人的な話になってしまいますが、上記のような教育、保育を私自身も行って行きたいと思っています。託児所開設を検討していて、以前役場に相談しに行ったところ「前例がない」で済まされてしまいました。（仕方がないことですので、深くは気にしていませんが、）もし可能であるならば、町の補助があると尚経営としても成り立つので、子育て支援の一環として補助金などもご検討お願いいたします。（基本的に個人でやると利用料金を上げるしか無くなってしまいうため、補助金があると利用料金を下げて気軽に利用してもらえるようになるため）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・祝日、休日の利用</li> <li>・パートタイマーの方の利用（保育園に通所していない人）・観光でいらした方や移住検討者などの一時利用が主な利用者になるかと思います。</li> </ul> <p>一補助、助成していただきたい部分一</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民対象に施設利用料を下げられるように保育料補助券などの対策</li> <li>・地域住民との交流費</li> <li>・観光利用者向けに広告費</li> </ul>	C	<p>幼（保）小中一貫教育の中でふるさと教育の実践を連携しておりますので、実施計画において検討いたします。</p> <p>また、保育の質の向上という部分で、実施計画で検討いたします。</p> <p>託児所開設の補助については、県補助対象外施設については、個別の事案となるので、有効性・優位性等を含めて担当課で検討します。</p> <p>また、幼稚園では幼稚園施設管理運営事業で、幼稚園では、真鶴の自然を活かした活動の他、毎朝、園庭でサーキット運動を取り入れており、園児が体を動かす機会を多く作っています。今後も様々な活動を検討していきます。</p>

No.	ページ	意見	区分	町の考え方
		<p>・施設整備費 など あくまで理想ではありますが、保育園やまなサポだけでは補えない部分をサポートできればと思います。 来年度入園の0歳児のお子様は1歳になるまで待機児童になると聞きました。(私自身も1歳児以上でないと預かれませんが、)今年度出産されている方も多く見受けられるのでイベント企画でも、子育て世代の方や子どもたちの力になりたいです。</p> <p>子どもとどう遊ばばいいかわからない、休日を持って余しているもっと自然の中で遊ばせてあげたいもう少し、親子で気軽に使える場所が欲しいなどのお話を伺っています。少しでもそういった声に耳を傾け対応していきたいので、町と一緒に進めて行ければ幸いです。 長文失礼しました。よろしくお願いたします。</p>		
8-1	16	<p>[課題]カラスによるゴミ袋破損の防止 (かなりの場所でごみが散乱しているのを目にするので調査し対策をとって欲しい) 役場のごみ出しでも散乱していた。</p>	C	<p>ゴミステーションは、その地域で管理・運営をしていただいております。町広報にカラス対策ネット使用の推奨記事を掲載して啓発を行います</p>
8-2	21	<p>[主な取り組み] 事業継承者の開拓 廃業者に代わって町が継承者を募集する活動をネットなどを利用し全国的に行うべきだ。単なる支援の段階ではない。直接動きださなければ手遅れになる。</p>	C	<p>商工会や金融機関など、関係機関と連携した取り組みを実施計画の中で検討してまいります。</p>
8-3	25	<p>[主な取り組み]後継者不足に対し、ネットなどで短期応援部隊を募集するのがよい。</p>	C	<p>事業承継に関して、町からの補助金を用いて令和2年度及び令和3年度に商工会と金融機関による支援事業を実施する予定となっております。令和4年度以降についても、関係機関と連携し、支援の実施を検討していきたいと考えております。</p>
8-4	27	<p>感染症対策の充実に対し取り組みとして、閉院（例えば大道クリニック）を借りて、PCR検査場所にして、高齢者福祉施設にいる職員及び利用者全員に実施することを提案する。まずここから始めるべきだ。</p>	C	<p>感染症対策は主に県の役割となりますが、提供できる検査場所の情報を伝えるなど連携してまいります。</p>
8-5	29	<p>見守り体制の充実に加えてボランティア車を組織化して高齢者の買い物を支援することが必要であろう。31ページに記載されているがシェアリングエコノミーが記載されているが、車のシェアリングの一つとしてボランティア車の利用が考えられる。空いているかなりある。空いている運転手もかなりあることから可能であろう。ライドシェアをボランティアでやるべきだ。</p>	C	<p>買い物に行けず、困っている方が利用できるように有償ボランティアである、まなづる協力隊「まなサポ」を事業展開しています。しかし、ライドシェアについては、町には福祉有償運送を行える事業者もないことから、ライドシェアまでの拡大した事業展開に至っていないのが実情です。今後の検討課題とさせていただきます。</p>
9-1	15	<p>5. 自然環境について/ お林の倒木や間伐材を有効活用する※ことはできないでしょうか。例えば、「木製品」、「蒔」等に加工して販売し、その売り上げをお林の保全・保護の費用にあてるなどができれば、と思います。(※先日、間伐材を使った「木のストロー」が話題になりました。アキュラホームグループ：カンナけずりの木のストロー <a href="http://www.aqura.co.jp/kinostraw/">http://www.aqura.co.jp/kinostraw/</a>) これまで大切に受け継がれてきたお林の木の再利用は、子ども達の(我々大人たちも含め)ふるさと教育(学校教育 22ページ)につながると思います。また、真鶴らしい観光資源(観光業 22ページ)にもなり、販売などを通して、障がい者の雇用・就労の場や機会、高齢者の生きがい(両29ページ)にもつなげていけるのではないのでしょうか。</p>	C	<p>お林の間伐材利用について 現在、お林での間伐材はありません(松枯れに関しては伐倒駆除をしているので間伐材にはあたりません)。また、保安林であるため木材利用の伐採は法律でできないこととなっています。倒木の利用については検討していきます。</p>
9-2	18	<p>11. 公園・港湾について/ 公園について、ひなづる幼稚園ママ達と共に、総合計画説明会時と、町長の出張説明会で意見をお伝えしてまいりました。公園づくりの最終目的地は、「子ども達・高齢者を含めた、すべての町民の時間(生活)の豊かさ」であったり、それがひいては「真鶴町(地域)の魅力(価値向上)」につながっていくことだと考えています。なので、実際に公園を使う町民と町とが一緒になって、長期的な視野(長い目で)をもって作りつづけ(育てる)次の世代に渡していくという「エリアマネジメント」や「パークマネジメント」といった視点を持ち、役場の方・町民、地域にかかわる様々な方と一緒に考えていく必要があると思います。そういった場や機会の設定を希望します。</p>	C	<p>町にある公園については町民の皆さんのご意見をしっかりお聞きし、協働で公園の利活用や整備を実現していきたいと考えております。</p>
9-3	22	<p>20. 学校教育について(37. 移住定住対策 31ページにも通じる) / 外国語教育の充実、ICT教育の推進は、もはや全国的に取り組まれていることであり、もちろんそちらの整備は早急に進めていただきたいのですが、</p>	C	<p>学校現場における今後の取り組みの参考にさせていただきます。</p>

No.	ページ	意見	区分	町の考え方
		それだけでは「真鶴の特長を活かした教育の推進」にはならないと思います。 お林や真鶴の海について学び、遊び、それぞれの手入れ（保全）方法を実践しながらお林や海を育てる技能を磨き、この環境を守るとともに活用していくことを考え、実践するなどを授業に取り入れる等、真鶴の環境を最大限に活かしたカリキュラムを希望します。 幼稚園（1園）・保育園（2園）・小学校・中学校と教育施設（クラス数も）が少ないからこそ、逆に12年間以上の時間をかけて、そういったカリキュラムを実践していくことが可能だと思います。教育に特色を持たせることが、移住・定住のきっかけにもなると思います。		
9-4	27	29. 医療について（37. 移住定住対策 31ページにも通じる）／ 小児科の設置を強く希望します。子育て中の親にとって、近所に小児科があるか否かは、大げさではなく大きな関心事です。移住・定住を考えるにあたり重要なポイントにもなります（先日も、移住を検討されている方から質問を受けました）。先日、おおみちクリニックが閉院し、また昨年までは診療所に月に2度ほど小児科の先生が来てくださっていましたが（現在はそれもなく）、それでは子どもの急な熱や病気に対応いただくことができません。また、幼児は2回接種が必要なインフルエンザワクチンについて（1回目3500円、2回目3000円）町で補助してくださるよう希望します。	B	診療所における小児専門医の配置は難しい状況です。しかし、「小児科の設置」としての記載は不可ですが、「総合診療」として子供から高齢者まで診療をおこなっている旨の記載は可能です。今後も検討していきます。
9-5	28	32. 児童福祉について（37. 移住定住対策 31ページにも通じる）（34. 高齢者福祉 29ページにも通じる）／移住して出産を経験したのですが、町に産後サポートのシステムが全くないことに大変驚き、正直大変困りました。移住をしたため、近くに頼れる親戚等がおらず（祖母も2名とも他界しており）、健康福祉課や民生委員の方に相談したところ、現状、真鶴にはそういったサービスはないとのことで湯河原のホームヘルプサービスをご紹介いただきました。ただ、サービス内容が希望とあわず利用できませんでした。 また民間企業の産前産後サポートは真鶴がサービス圏外のところも多く、来ていただいてもお支払い金額が高額です（交通費+時給2,000円〜）。以前暮らしていた荒川区にはこういったサービスがあり、長女出産のときに大変助けていただきました地域のアクティブシニアの力をお借りするなど、ご検討いただけないでしょうか。荒川区：産後（35）サポネット <a href="https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a035/ninshinshussan/ninsampushien/volunteer.html">https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a035/ninshinshussan/ninsampushien/volunteer.html</a>	C	まなサポの内容の拡充を検討するなど、子育て支援策検討の参考にさせていただきます。
10-1	14	3、小児救急電話相談事業#8000や、110番に電話をかけると、静岡につながってしまう時があり、緊急の場合に困ります。改善していただきたいです。 4、歩道がほしいです。特に通学路。	C	①#8000・・・#8000や110番を携帯電話から発信した場合は、発信場所の位置によりどの基地局を経由するかによって着信先が決定される仕組みとなっているため、現状でこれを解消することは困難です。なお、#8000につきましては、「045-722-8000」にお掛けいただくと神奈川県との対応となります。 ②AED・・・ご要望の趣旨は理解できますが、AEDの設置場所については、盗難やいたずら防止等の関係から、屋外への設置は想定していません。 ③歩道・・・真鶴町内の道路は、狭い区間が多く歩道の設置は困難と考えています。なお、一部区間は、グリーンベルト（カラーリング）により歩行者の安全確保を促しています。
10-2	15	5、お林の間伐材の利用。 6、生ゴミ処理容器コンポスト設置助成金。湯河原のように。	C	お林の間伐材利用について 現在、お林での間伐材はありません（松枯れに関しては伐倒駆除をしているので間伐材にはあたりません）。また、保安林であるため木材利用の伐採は法律でできないこととなっています。倒木の利用については検討していきます。 コンポストについて 第4次総合計画では実施しておりましたので、引き続きごみ処理器コンポスト設置助成金について実施することを検討しております。
10-3	18	11、尻掛海岸の整備。廃屋が占拠していて、せっかくの景観がもったいないです。治安も心配です。夏、琴ヶ浜に水上バイクが大勢で上陸してきて危険です。ルール作りが必要だと思います。	C	尻掛海岸や真鶴港湾を管理する神奈川県と連携しながら改善対策や活用できる環境づくりに取り組んでいきます。
10-4	22	20、幼稚園では、荒井城址公園や町内のみかん狩りなどにも徒歩で行く事がなくなってしまいました。危ないからと全てを排除するのは、とても残念です。海の学校や海の幼稚園は、真鶴らしくて、とても素敵な体験学習の場だと思います。ぜひ続けていただきたいです。	C	徒歩での危険のない範囲で、みかん狩り等に徒歩で行っていきます。

No.	ページ	意見	区分	町の考え方
10-5	30	35、町のホームページがとても見やすくなったと思います。さらなるパワーアップを期待しています。	C	今後もわかりやすく、見やすく、タイムリーな内容が発信できるよう努めてまいります。
11	18	公園について 5歳と1歳の子育てをしています。真鶴の豊かな自然の中での遊びをもっと楽しめたらいいなと感じていて、子供を連れて集まれる公園の整備を希望しています。公園を求めて隣町まで移動する、なんて話もよく聞きます。例えばですが、現在パークゴルフ場になっている展望公園の一部を子供の遊び場として整備していただけたら、多世代の交流が生まれて賑わう場になるのではないかと、同じ子育てママの間では話題になる事もあります。展望公園の休憩所も子供を連れて気軽に利用できるようなになったら嬉しいです。	C	町にある公園については町民の皆さんのご意見をしっかりお聞きし、協働で公園の利活用や整備を実現していきたいと考えております。
12-1	13	防災、減災について 大規模災害が起きた際に、避難所にはどれくらいの人数が避難するか想定されているのか。例えばまなづる小体育館など、避難地域の全員が入りきれるとは到底思えないのですが…乳幼児を連れた親が優先的には入れる避難所や車椅子などでもOKな避難所をあらかじめ決めて町民に知らせておいてほしい。	C	町の避難所は4か所で最大1,295人で指定しています。災害時に指定避難所が収容しきれない場合は、小中学校の空き教室や町有の別施設等を活用することにより避難所を確保する計画となっています。また、乳幼児や障がい者などの要配慮者については、空き教室や別室利用などにより十分な配慮を行ってまいります。
12-2	14	救急について 真鶴には救急車が1台しかなく、出払っている場合には奥湯河原から来ると聞いているが、高齢率も高く救急要請も増えると考えられる現状で1台のみでは一刻を争う場合には命に関わるのもう1台配置してほしい。	C	救急車の配備については、真鶴町と湯河原で全体で計5台で配備され、内訳は、湯河原町本書に2台、真鶴分署に1台、奥湯河原分署に1台、予備車1台（で全体と運用されています。また、国の指針である消防力配備基準では、人口20,000人当たり1台配備としており、現状で救急車の配備が少ないとは考えておりません。
12-3	14	交通安全 高齢ドライバーの運転が危なすぎるので、免許返納を勧めたり講習など対策してほしい。	C	町では運転免許証自主返納支援により、自主返納した方に公共交通機関の割引チケットを交付しています。引き続き実施計画で検討します。（町まちづくり課所管） 70歳以上の方の運転免許証の更新には、高齢者講習が義務付けられており、75歳以上の方にはこの講習の前に認知機能検査の受検が必要とされています。（警察所管）
12-4	18	公園、港湾 公園はほぼどこも防災用具置場としか機能していない。放課後に子どもは家か小学校でしか遊べない現状を早期に改善してほしい。こどもが遊べる遊具が全然ないので設置してほしい。お林展望公園のパークゴルフは辞めてほしい。芝生で自由にくつろげるスペースにしたほうが人が集まると思う。駐車場は町民以外は有料にしてもよいと思う。	C	町にある公園については町民の皆さんのご意見をしっかりお聞きし、協働で公園の利活用や整備を実現していきたいと考えております。
12-5	22	観光 イベントの開催ばかりでなく、自然を活かした観光を目指した方がよいと思う。星空観察やバードウォッチング、ノルディックウォーキングなど、軽井沢のピッキオのような活動ができる場所を誘致したらどうか。	C	「真鶴ライフ観光デザイン アクションプラン」において、お林の環境教育への活用など自然資源を活かすことは定めています。ウォーキングや自然散策だけでなく、ツアー等のコンテンツに活かせるよう現代の観光資源の磨き上げを検討をしてまいります。
12-6	22	教育 町に小学校も中学校もひとつずつしかないのだから、それを生かした特色ある教育をしてほしい。文科省も小中一貫教育を推進しているのだから取り入れたらどうか。	C	令和元年度から「真鶴町学校教育あり方検討会」を立ち上げ、更なる小中一貫教育の推進等についても検討をしています
12-7	27	医療 町内に救急対応できる病院がない現状で、大規模災害が起きた場合、医療体制がどうなるのか不安しかない。道が通れず小田原や湯河原まで通行できなくなった時には、救急医療は受けられないのではないかと。災害時に町内に医師や看護師など医療従事者が何人くらいいるのか町は把握しているのか、臨時に医療を受けられる病院機能を設けられるのか、トリアージできる人材を確保できるのか体制を整えて周知してほしい。	C	町内に大規模災害が発生した場合は、町の地域防災計画では町内医療機関（真鶴町国保診療所）又は指定緊急避難場所に設置する計画となっています。また、小田原医師会、小田原歯科医師会、小田原薬剤師会、神奈川県などに医療救護班の出動を要請する仕組みとなっています。陸路が遮断され重傷者があった場合は、ヘリコプターを利用して災害時拠

No.	ページ	意見	区分	町の考え方
				点病院に搬送することになっています。
12-8	28	児童福祉 こどもを急に預けたい場合に預ける体制が整っていない。ファミサポなど作ってほしい。学童保育も、単発では預けられないし不便。こどもの遊び場は、具体的にどんな場を考えているか示してほしい。	C	具体的な案は、町民の声を聴きながら検討します。現在、町内の公園についてまちづくり課を中心に町民の意見を集約しながら検討会を行っていますので、その結果も加味して児童福祉施設管理事業に活かしていきたいと考えています。
12-9	31	移住定住対策 子育て世代が安心して生活できるようにするためになぜ仕事場の創出が必要なのかよくわからない。保育園が18時までのところと19時までのところしかなく、使い勝手が悪いところなどから改善して他地域で働く人も通いやすいようにするなどしたほうが良いのではないかと。子育て世代は、自然やゆったりした時間を求めて移住するのに、幼稚園や保育園で自然をいかした保育がおこなわれていないのでがっかりしている人が多い。森のようちえんなど、真鶴の特色を生かした保育をしているなどアピールしたほうが人が来ると思う。小中の給食もほぼ真鶴のものや、オーガニックなものにしてアピールする。	C	子育て世代の母親が仕事をとおして、安定した収入を得て、社会との繋がりを持つことによって安心して生活ができるようになり、定住に結びつくため、20学校教育や32児童福祉の中で検討してまいります。
13-1	22	新しく魅力あるものを開発するのではなく今の町を整備していけば訪れる人は増えると思う特産品などではなく時間を提供できれば良いと思う	B	現在、「幸せをつくる真鶴時間」という観光グランドコンセプトを掲げ、都会では体験できない、ゆったりとした人の温かみを感じられる時間を真鶴町で過ごしていただけるよう、観光施策を進めております。
13-2	16	自然環境を守る為に町民の意識づけが必要だと思います。生活排水がそのまま海に流れている地域も多くあります。普段使う洗剤やシャンプーなども海に流れることをみんなで意識できるように発信して欲しいです。ゼロウェイスト宣言をしている市町村もいくつかあります。(近隣では葉山)真鶴のような豊かで美しい自然がある町こそが、ゼロウェイストの取り組みをして欲しいです。その取り組み自体も真鶴の魅力になり移住者も増えると思います。	B	SDGsのゴールに、6安全な水とトイレを世界中に、13気候変動に具体的な対策を、などがあり、ゼロウェイストの取り組みはその達成方法の一つと考えています。重点プロジェクトの②SDGsの事業の実践、普及に取り組み、SDGsの視点に立った持続性の高い地域づくりの中で、検討してまいります。
13-3	18	駐車場があって人の目が届きやすい公園が欲しい。既存の公園の整備を進めて欲しい。公園に遊具が少ない。平坦な道がないので子供が自転車やスケボーを練習できない。バスターゴルフの場所を利用者がいないときは解放して欲しい。	C	町にある公園については町民の皆さんのご意見をしっかりお聞きし、協働で公園の利活用や整備を実現していきたいと考えております。
13-4	20	自然環境を活かした教育を実践して欲しい	C	現在も小学校・中学校・幼稚園で様々な真鶴の自然を活かした教育を行っていますが、更に実践できるよう学校・園とともに検討していきます。
13-5	28	学童、放課後クラブ？ ファミリーサポート充実させて欲しい、それが難しければ自主保育コミュニティへなどのサポートをして欲しい。	C	32児童福祉の中で、子どもの居場所づくりを進めてまいります。